



「TEJ2022」の主なシーンを振り返る(左上:第5回 TEJ 観光大臣会合、右上:テーマ別シンポジウム、左下:展示会場、右下:商談ブースの様子)



上:「ツーリズム EXPO ジャパン2023大阪・関西」広報アンバサダーとして、NMB48の3人が活動中。左から塩月希依音さん、小嶋花梨さん、出口結菜さん。下:2019年に大阪で開催されたTEJ2019大阪・関西開会式の模様。

多様化する観光産業の未来像示す 「ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西」が開幕 フォーラムテーマは“Rethink”、2025年万博も視野に

世界最大級の旅の祭典「ツーリズム EXPO ジャパン2023 大阪・関西」が、きょう開幕。インテックス大阪で29日まで行われる。主催は、日本観光振興協会、日本旅行業協会(JATA)、日本政府観光局(JNTO)で、「未来に出会える旅の祭典」がメインテーマとなる。

コロナ禍を乗り越え、国内、海外、訪日ともに旅行に対する機運が高まる中、世界各国、全国各地の観光関連事業者が4年ぶりに大阪に結集。「旅の未来像を発信」「2025大阪・関西万博へつなぐ」「関西から新しい日本の魅力を世界に発信」「持続可能な発展に貢献」など4つのポイントで、進化する観光産業の未来像を示す。また、急回復する訪日旅行のさらなる発展に向け、JNTOによる商

談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート(VJTM) 2023」も合同開催される。

26、27日は展示商談会やフォーラム、シンポジウムなどが行われる業界日。28、29日は展示やイベントで旅行の最新情報を紹介する一般公開日で、会場には大阪・関西の未来を表すゾーンも設置される。

業界向けフォーラムは、「未来のために、ツーリズムを『再考(Rethink)』する」をテーマに実施。2025年大阪・関西万博にスポットを当てた基調講演、TEJ観光大臣会合、アドベンチャーツーリズムをはじめとしたテーマ別シンポジウム、ジャパン・ツーリズム・アワード表彰式、ツーリズム・プロフェッショナル・セミナーなどが開催され、知見共有や議論を通じて

観光産業のさらなる発展を模索する。

コロナ禍で人と人との交流が制限された一方で、改めて注目されたのが地域活性の切り札であり、世界中の人々を笑顔にすることのできる観光の力。また、SDGs、DXといった事業者を取り巻く環境にも急速な変化が見られる中、今年は国内外の観光需要を本格的に復活させ、国家イベントである2025年大阪・関西万博に向けて持続可能なカタチで観光を軌道に乗せる節目の年でもある。旅のチカラで新たな交流市場創出につなげようという動きも顕著であり、大阪からどのような日本の観光の未来が発信されるのか期待が集まる。

来場者数はコロナ禍前の2019年並みの15万人を見込み、8000件以上の商談が予定されている。

ごあいさつ



ツーリズムEXPOジャパン実行委員長 高橋広行

新たな日本のツーリズムを国内外に発信

今年で9回目となるツーリズムEXPOジャパンが、いよいよ開催となります。2025年のビッグイベントである日本国際博覧会(大阪・関西万博)やIR開業などで、世界中から注目が集まるこの大阪・関西で開催できることを大変嬉しく思っています。この大阪・関西を起点として、新たな日本のツーリズムが国内外に発信され、活性化に繋がる大きな流れが巻き起こることとなります。

今年のテーマは「未来に出会える旅の祭典」です。新たなツーリズムの時代にふさわしい商品やサービス、イノベーション、情報の発信など2025年大阪・関西万博へと繋ぐさまざまな企画をご用意しております。

日本最大の訪日商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート2023」は、4年ぶりに完全リアル形式で同時開催いたします。また、日本ASEAN友好協力50周年にあたる節目の年に開催となる第6回TEJ観光大臣会合は、『未来のために、ツーリズムを「再考(Rethink)」する』をテーマとして、ASEAN諸国を中心に各国の観光大臣や国際観光機関の代表者にご参加いただき、ツーリズムの未来に向けた議論を行います。基調講演では、2025年大阪・関西万博の会場運営プロデューサーである石川勝様にご講演いただきます。

初日のWELCOME RECEPTIONは、2019年を超える2,000人規模で行います。大阪・関西ならではの趣向を凝らした企画でおもてなしをしますので、どうぞご期待ください。また、展示会場には、日本全国、世界80カ国以上もの国や地域から出展者が集まりました。未来に向けた新しい旅のカたちをご覧いただけるツーリズムEXPOジャパンを、心ゆくまでお楽しみください。



大阪観光局会長 福島伸一

万博の機運醸成へ、パワーアップして開催

2019年以来、4年ぶり、2回目のツーリズムEXPOジャパンを大阪で開催することができ、大変嬉しく思っています。

観光関連業界は約3年近くにわたり、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けてきましたが、全国旅行支援やインバウンド水際対策の緩和により、国内旅行だけでなく、インバウンドも回復基調にあります。

ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西は、大阪・関西万博のおよそ500日前のビッグイベントとなりますが、このような絶好のタイミングで開催できますこと、あらためて多くの関係の皆様にお礼申し上げます。

今年のツーリズムEXPOジャパンですが、2019年よりパワーアップしております。大阪・関西の自治体や、観光協会、観光施設、運輸業、さらに人材派遣会社、大学、IT、飲食業など多岐にわたる新たな業界や団体からご参加いただきましたが、あらためて観光産業の裾野の広さを再認識いただけるかと思います。

また大阪・関西万博へ向けた機運を醸成すべく、2025年大阪・関西万博プレプロモーションエリア「大阪・関西未来ゾーン」を設けております。こちらの11ブースも見どころがたくさんございます。さらに本年は、食の都・大阪ならではの有名店が出店し、食の充実も図りましたのでご期待ください。

ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西が、大阪・関西・日本の観光の本格的復活の起爆剤になると共に、2023年のツーリズムEXPOジャパンから2025年大阪・関西EXPOへとつながるイベントになることを期待しております。

皆様、ぜひ会場にお越しください。会場で皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

アジアゲートウェイ関西の挑戦

産業の再考と2ウェイの本格復活、
万博やAT、観光SDGsなど新潮流に高まる期待



国内旅行、海外旅行、訪日旅行が三位一体となり、アジアのゲートウェイ関西から新しい旅の魅力を世界に発信する「ツーリズムEXPOジャパン(TEJ)2023 大阪・関西」。大阪では4年ぶりの開催となる今回は、未来に向けたチャレンジに加え関西エリアの地域経済活性化、そして2025年大阪・関西万博への流れをつくる様々な企画が用意されているのが特徴だ。同時に、地球規模の環境問題から観光SDGs、トラベルテックなど観光産業を取り巻く新たな潮流・課題にも幅広くフォーカスしている。

フォーラム&セミナー

ローカルとグローバルの課題を共有

◎「万博×観光」で基調講演

「未来のために、ツーリズムを『再考(Rethink)』する」をテーマに行われる業界向けのフォーラム&セミナーでは、日本の成長を持続させる起爆剤として期待されている2025年大阪・関西万博への機運を高めるプログラムに比重が置かれるとともに、地球規模の環境問題の視点も欠かさない。

基調講演に登壇するのは、2025年大阪・関西万博の会場運営プロデューサーである石川勝氏。万博は関西圏を中心としたビジネス機会の拡大などとともに、TEJと同じように、異なる文化との交流を通じた地域経済の活性化、世界への日本の魅力発信を目的としている。講演タイトルは「新たな時代の万博を共に創ろう」で、会期初日26日に石川氏が「万博×観光」について、どのような示唆を投げかけるかが期待される。

27日に開催されるテーマ別シンポジウムのテーマの1つも「万博」だ。「万博×観光シンポジウム」のパネルディスカッションでは、東武トップツアーズ代表取締役社長執行役員の百木田康二氏をモデレーターに、沖縄観光コンベンションビューロー会長の下地芳郎氏、JTB代表取締役社長執行役員の山北栄二郎氏ら日本を代表する観光関係者のトップがパネリストとして参加する。

◎海外旅行、ATでもテーマシンポ

万博のほか、シンポジウムのテーマとして取り上げられるのは「海外旅行」と「アドベンチャーツーリズム」である。「海外旅行」は国内旅行、訪日旅行に比べ、回復の遅れが課題となっている。円安、航空・地上費の高騰、心理的なハードルが壁となっている現状で、日本人が海外旅行を当たり前のように楽しめる環境をつくるために何ができるのか。有識者による議論に注目したい。

「アドベンチャーツーリズム」はアクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上を組み合わせた旅行形態として定義されている。3月に改訂された観光立国推進基本計画の柱である「持続可能な観光地域づくり」「消費額

TEJ2023の注目ポイント

拡大」「地方への誘客推進」のいずれにも寄与し、中長期的な滞在者やリピーターの増加が期待される分野である。今年9月には、北海道で「アドベンチャートラベル・ワールドサミット2023」がアジアで初開催された。国内外の最新情報を入手するとともに、北海道で育ち始めた種を日本全国にいかに関散させるかを知ることができる機会となるだろう。

◎6回目を迎える観光大臣会合

世界の観光トップも、4年ぶりに大阪を訪れる。2023年は「心と心のパートナー」と呼ばれる強固なパートナーシップを築いてきた日本とASEAN(東南アジア諸国連合)の友好協力50周年でもある。

そこで、ASEANを中心に各国の観光大臣・観光行政トップ、国連世界観光機関(UNWTO)、世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)、太平洋アジア観光協会(PATA)、欧州観光委員会(ETC)、アドベンチャートラベル・トレード・アソシエーション(ATTAA)の5国際観光組織の代表が参加して「第6回 TEJ 観光大臣会合」を開催する。

昨年は観光産業による気候変動対策への取り組みの観点で、官民連携による解決策の仕組みづくりなどが提言されたが、今年はその上で、コロナの脅威から脱却した世界がツーリズムをどう再構築し、持続的なものとしていくかについて、各国・地域、業界をけん引する団体トップが最新情報をもとに意見を交わす。

今回、新たな試みとして、観光大臣ら参加者の控室として、約2時間で空気を膨らませて設置できる巨大テントも導入される。コロナ禍で開発されたもので、屋外の悪天候時での活用など MICE 開催時のツールとしても参考になりそうだ。

◎多彩なプロ向けセミナーや顕彰・交流事業

ツーリズム・プロフェッショナル・セミナーは、例年以上に増やした枠がすべて埋まり、出展者の熱意が感じられる内容となった。ラインナップも、観光産業共通プラットフォームをはじめとした観光DX、環境省によるエコツーリズム指南、酒蔵ツーリズム、中近東・アジアなどのデスティネーションセミナー、法務セミナー、インバウンド、宇宙旅行までバラエティー豊かだ。特にDXは、デジタル技術が従来のビジネスモデルを大変革する潮流が世界的に強まる中、日本でもDX推進によって旅という非日常の体験の魅力をどう高めていくか、各社・団体の取り組みから学びを得たい。

顕彰事業では、第7回「ジャパン・ツーリズム・アワード」の表彰式が行われる。ツーリズムの発展・拡大に貢献した、国内・海外の団体・組織・企業の持続可能で優れた取り組みを表彰するもの。選考結果はすでに発表されており、国土交通大臣賞は国内・訪日領域で、沿線まるごと社による過疎高齢地域を面で捉えた課題解決策「沿線まるごとホテル」プロジェクトが受賞した。

なお、2023年からは、国土交通省観光庁が毎年実施する「観光庁長官表彰」と統合されること



テーマ別シンポジウムのテーマとなるアドベンチャートラベル(左)、そして展示会では、サウジアラビアなど中東・中央アジアの国々の取り組みが注目される(右はサウジアラビアの世界遺産の一つ、ディルイーヤ遺跡)



になった。官民が連携することにより、より広い視点から優れた取り組みが選ばれることになる。

初日26日に国内外の来賓、協賛社、商談会バイヤー、出展者などが参加する交流事業「Welcome Reception(ウェルカムレセプション)」は、またとないビジネスネットワーキングの場となるだろう。ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)の現役プロによるダンス披露、日本のジャズ発祥地である神戸のパフォーマンス、灘の日本酒、粉ものなど関西ならではの食などのコンテンツを中心に日本文化を世界に発信する。

展示商談会

ツーリズムの復活アピールの場に

◎中東・アジアに新たな動き

26、27日の業界・プレス日に加え、28、29日の一般公開日に消費者も見学・体験できる展示ブースでは、すぐにでも旅立ちたくなる海外・国内の旅の最新情報や、華やかな民族衣装、ご当地グルメ、ステージパフォーマンスといった多様なコンテンツがそろそろ。

地域の特性を活かしたイベントや、VR、現地と直接つないだアバター体験といったデジタルテクノロジーを駆使した体験スポットといった加速するトラベルテックを活かしたDX支援策など、出展する企業・団体の多くが未来にふさわしい観光資源を開拓し、来場者にさまざまな魅力を訴える機会となる。

国・地域エリアでまず注目なのは、昨年の東京に続き、2回目の出展となるサウジアラビア政府観光局。サウジアラビアは観光分野での投資を拡大させ、各地でリゾート開発やスマートシティの開発が進んでいる。ツーリズム・プロフェッショナル・セミナーも開く中央アジア5カ国(ウズベキスタン・カザフスタン・キルギス・タジキスタン・トルクメニスタン)、TVドラマのロケ地になったモンゴルも急成長が期待されている。ハワイや韓国、中国、アメリカ、ヨーロッパなども従来通り、大型出展されている。

◎旅のニュースタイルを提案

「新しい旅のカたち」を特集したコーナーも設置される。新しい働き方が浸透してテレワーク普及が追い風となり、仕事や学習と余暇を組み合わせ

た「ワーケーション」「ラーケーション」、道の駅などでの消費も拡大の一途にある「ドライブツーリズム」、夜間観光振興、滞在型旅行の喚起が期待される「星空ツーリズム」は、特集エリアとして展開する。

また、船旅の人気復活に向けた「クルーズ」、観光人財育成や産官学連携のネットワーク構築のための「アカデミー」、さらに「スポーツツーリズム」「アドベンチャーツーリズム」「観光SDGs」も、未来につながるツーリズムを発展させる目的で「特別コーナー」が設置される。観光SDGsは持続可能なツーリズムの取り組みを紹介するとともに、一般日に「観光SDGsデジタルスタンプラリー」を実施して認知度向上を図る。

◎関西の夢ある未来へ

大阪開催ならではのポイントが、大阪・関西の未来を表すゾーンが設置され、楽しく夢のある未来の世界を垣間見ることができること。コロナ禍で大打撃を受けた日本の観光産業は、復活に向けて着実に動き出している。

TEJを皮切りに、関西地域では2025年大阪・関西万博、ワールドマスタースゲームズ2027関西、IR(統合リゾート)開業といった大型事業が相次いで予定されている。2024年には日本の海外旅行自由化60周年を迎える。この潮流を持続化させ、変化・多様化する観光産業の未来が、TEJから新たに始まることになる。

◎訪日、トラベルテックの商談会も

JNTO主催で合同開催されるのが、日本最大の訪日旅行商談会「VISIT JAPAN トラベル & MICE マート」。海外から約280人、国内から約300団体・社が参加し、6000件以上の商談が予定されている。サステナブル・ツーリズム、アドベンチャートラベル、アート・カルチャーをテーマとした分科会も行われ、先進的なツアー造成を働きかける。ファムトリップは西日本中心に、日本が誇るコンテンツを体験してもらう。

テクノロジー関連については、TEJと日本経済新聞社が「トラベルソリューション展 2023」を同時開催。5G、生体認証、ロボット技術など観光業界とのビジネスを模索する企業・団体が出展し、地域の課題解決を求めるTEJ出展者との商談会が行われる。